

“傷寒論鍼灸配穴選注”からみた“陰陽太極鍼”

～一穴で多くの“開穴”が消失する

東方鍼灸院 吉川正子

『傷寒論鍼灸配穴選注』という書物を始めて読んだのは、ずいぶん昔のことだった。鍼灸の古典は主に素問、靈樞、難経、傷寒論とあげられるが、傷寒論はむしろ湯液の書として重視される。しかし、湯液よりむしろ鍼灸治療においては、六経弁証で欠くべからざる重要な内容が記載されており、特に陰脈陽脈そして陰陽表裏を意識するとき、とても重要な意義を持っている。

私はこの本が日本語に翻訳されたとき（1996年緑書房より）すぐに手に入れ、時々読んでいたが、とても難しくて弁証はおろか、配穴原理の説明部分は読んでもほとんど理解できず、長い間放っておいたようだ。しかし何か心に引っ掛かるものがあり、時にふれ関係ありそうな条文を読み、そんなこともあるのかというくらいの軽い気持ちで真剣に取り組むこともなく、これまでそのままになっていた。

私は中医学、東洋医学の基本理論である陰陽論は早くより、左右、上下、表裏の陰陽、時間の陰陽、寒熱の陰陽等の考え方を一つ一つ認識し、実践するようになり、とうとう左右上下表裏、その他の陰陽を取穴においていつも考慮し、実践することにより、多大な効果に目を見張る思いをし、経脈の不思議を常々強く意識してきた。

しかし、何故このような事がおこるのか、昔の人々は鍼の理論をどう考え、治療に応用してきたのか、今一度、古典を読み直し、生命の不思議の一端を知りたいと思い、この書を再度読み返した。

そうしたら、症状に対して選ばれている経穴が陰陽五行、臟腑経絡の鍼灸理論が全面に展開され、諸々な生理現象がどのようにしておこり、どのように対処すれば良いかがこと細かく述べられており、いちいち納得できて、もっと早く学ぶべきだったと、今更ながら本書の内容に深く敬服しているものである。

もともと、本書を以前に垣間見たことからヒントを得、鍼灸治療の根本は経脈の流れをよくする事という以下の条文に出会ってから、私の“陰陽太極鍼”の治療体系が出来あがってきたので、ここにその一節を引用する。

「身体を絡う経絡は上下に接続して、内外を連絡している。鍼灸治療は、十二正経と奇経八脈を循行する気の流れをよく観察し、全体を顧みながら、病の原因を経絡の変動の中に見出して行っていくものである。そして、本来の去来する正常な流れに導き、有余不足を調べていけば、自然と病より解放されるものである。」（『傷寒論鍼灸配穴選注』7頁第3節 経脈循行の意義と病候治要より）という一文を読んだ時、これだ！と深く感じたのだった。

六経とは三陰三陽、病は陽よりおこり陰へ伝わる。三陽経は太陽経が太陽膀胱経と太陽小腸経、陽明経は陽明胃経と陽明大腸経、少陽経は少陽胆経と少陽三焦経であり、三陰経は太陰経の太陰脾経と太陰肺経、少陰経は少陰腎経と少陰心経、厥陰経は厥陰肝経と厥陰心包経である。

この経脈の前についている太陽、陽明、少陽、太陰、少陰、厥陰という六経を認識することが、病の発展、病の部位、病の症候を認識するのに大変重要なことなのである。

鍼灸は誰がやってもそこそこ効く。どんなやり方でも効くことがあり、時にはどこへ行っても治らなかった病気が、鍼治療を受けてから良くなったという事がよくある。私も初めの頃、見よう見まねで、子宮筋腫の友人を治療して治ってしまっても喜ばれたが、どうして治ったのか自分でもよくわからず驚いたことがあった。体に一本鍼をするといろいろなところへ反射がおこり、代謝がよくなり勝手に治ってしまう事がある。全国にはいろんな流派の鍼灸があり、それぞれ治しておられるのだろう。だから仕事として成り立っているのだ

ろうと思っていた。でもどうして効くのかきちんと説明できる理論的根拠はないに等しい。

現在、私は刺さずに置くだけの“陰陽太極鍼”をやっている。初めの頃は「中国のはだしの医者」に学んで、たい中国針を快速針刺法でツボにブスブス怖い物知らずで深く刺入していた。そのうち日本の伝統的な和鍼の銀鍼1番などで接触鍼などもやるようになり、皮膚にあてるだけでも効くという事を経験していた。東京ではいろいろの研究会にも顔を出し、高名な先生方の講習会にも参加した。北海道へ移り住み、再び中国医学を学ぶ機会に恵まれた。中医雑誌日本語版を翻訳出版しながら、中国から老中医を招いて実際に、弁証論治で患者さんの治療にあたった。その後「王穴」との出会いがあり、痛い所の左右、上下、表裏の陰陽のバランスをとれば遠隔で効くことを知り、いろいろのケースで試み、多くの場合よく効くので“陰陽太極鍼法”としてバルセロナ大会で発表した。その後、部位の陰陽だけでなく、寒熱、虚实、子午などあらゆる陰陽関係をすべて網羅した“陰陽太極鍼”という治療法を確立した。

そして、今は針を刺さずに置くだけで、生体は劇的に変化するという事実を掴み、色々な機会に発表している。

この方法では、深く理論がわからなくても切経で“開穴”を探しすぐに治療ができて、反応の変化も即確かめられて、症状が改善できるので、効く理由は後からゆっくり考えてみればよい。

初めの頃の私の経験では、風邪が長引き、熱も取れず、汗も出て怠く、声もよく出なくなっていた人を、切経したら太陽膀胱経の崑崙に“開穴”が現れていたもので、そこに補で鍼を貼ったら、それから汗が止まり、熱も引き、声も出るようになり、数時間後すっかり元気になられた例があって、私自身びっくりしたことがあった。後で考えてみたら、崑崙は太陽膀胱経なので、太陽病に効く。太陽は“表”、“陽”を主るから、表虚の汗の出る風邪に効果があった。

この本に書かれている配穴は大体4穴位。こんなことで病が治るのものかと、あまり信じられないような気もする。でも一穴一穴の効能解説を読むと深い意味があり、これを陰陽で考えてみると、その意味が分かるようになった。

切経で経絡の流れを調べ“開穴”を見つけてそこに補瀉をするというだけで、体が大きく変わるというこの治療法を実践するようになってから、この本の説明がとてもよく分かるようになった。

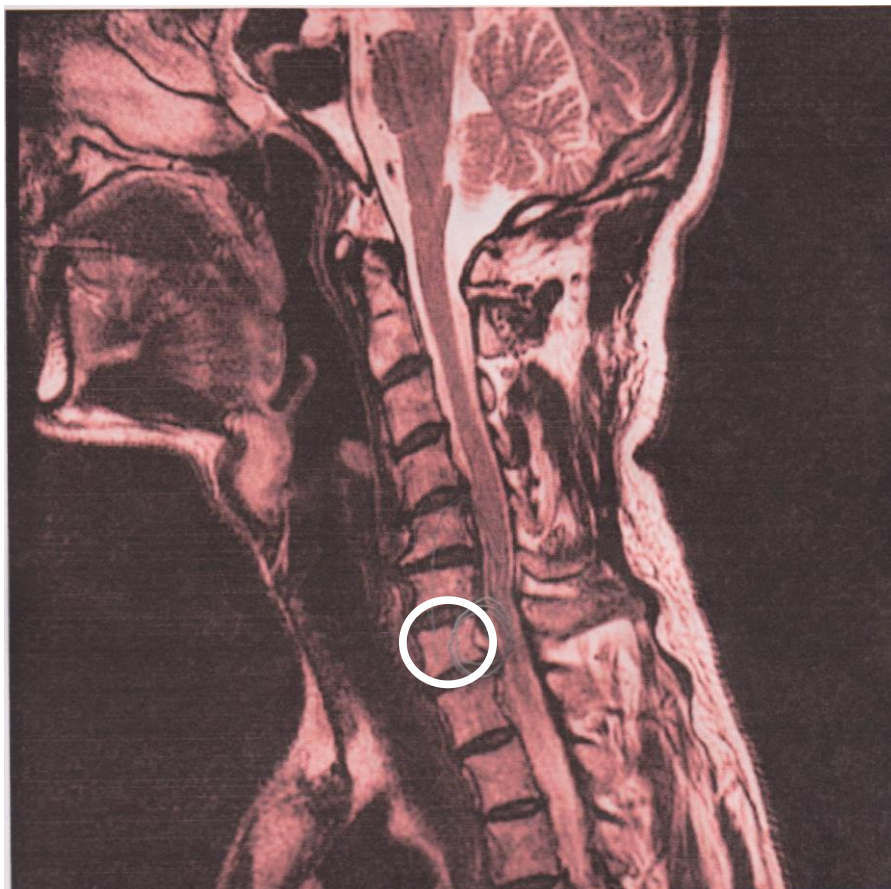
最近の大発見 ～三焦愈の不思議が傷寒論で分かった

三焦愈という穴は背部膀胱経の腰椎1番の両側にある。ここを軽擦すると、とても過敏で我慢できないくらいくすぐったい人がいる。そこに補瀉をすると背部愈穴の“開穴”が全部消えてしまうことがある。初めはなぜこんなに効くのか不思議だった。そこで、傷寒論少陽病脈証治に三焦の意味についての記載があった。

三焦とは上焦、中焦、下焦、をすべて網羅して絡脈を通じさせる働きがある。故に全ての臓腑（上焦は呼吸器、中焦は消化器、下焦は泌尿生殖器の全て）をまとめて通じさせる。だから全身の上下、内外、表裏の経絡を全て通じさせて、行き渡らないところはないと記述されていた。これで私は三焦愈の効果が広範囲で全身に影響が大きいのだという事が、はっきり理解できるようになった。それから三焦愈の外方、特に過敏なところに3mmの皮内針又は王不留行を貼るという方法を多くの患者さんに使用している。又、右委陽（三焦の下合穴）や、上肢の三焦経の外関なども良く、一穴で広範な作用がある。

(症例より学ぶ)

1. 頸椎椎間板ヘルニアで手術直前の患者さんが太谿の置くだけの瀉の皮内鍼で完治した例



1年前から、左肩甲骨が痛み、眠れず、整骨院へ通い始め 20 回電気治療と冷却で一時痛み軽減するも、肩甲骨周りに違和感が残る。その後、カイロプラクティックではストレートネックと言われ、首をバキバキされて痛みが増強する。病院を受診するも診断がつかず、鎮痛剤のロキソニンが出るも、薬の量だけが増え不安になる。外の病院で、レントゲン、MR I 等の検査後、頸椎 7 番のヘルニアと診断され手術しかないと言われ、再び他の整骨院へ、そこで当院を紹介されて半信半疑で来院。

頸椎 7 番のヘルニアで肩甲骨から左腕の先までしびれて痛み、手を使えない状態。首を触診すると左下部に圧痛があり、熱感もあり汗が出ていた。このような場合、左右・上下・表裏の陰陽のバランス点は右側の下肢内側、太谿の上部が最もバランスがとれるところなので、そこに初めは王不留行の種子を 1 つ貼った。そうすると首はらくになったが今 1 つしっくりしないので、太谿のツボを下方へ瀉の向きで撫でたら、その方向が気持よいと言われるので皮内鍼を下向きに貼ってみた。そうしたら首の熱感と汗がひき、肌がサラサラして圧痛もなくなった。

そして 3 日後様子を聞くと、“どうもその貼った鍼が効いている感じがする”とニコニコして話された。確かに瀉法が効いているようだった。そして週 1 回来るたびに腕の調子もだんだんよくなり、1 か月後すっかりよくなってしまったのでした。その間、赤黒くなっていた内至陰や隠白に刺絡したり等もしましたが、主要にはこの太谿の瀉の鍼が大変効いたようでした。これは大変重要な症例だから、よくなっているのかエビデンスが欲しいから、是非 MR I や CT、レントゲンなど画像診断を受けてきて下さるよう再々お願いしたのですが、もうよくなって何の支障もないから検査に行きたくないとのことで、いまだに検査ができていませんが、これを聞いて頸椎症の人たちがけっこう来院され、皆さん短期間に首の調子がよくなっています。ついでに頭への血流もよくなるので、頭がはっきりしてきたり、肩こりがよくなったりしています。

瀉の置鍼は、従来なら考えられない方法。“腎に実なし心に虚なし”などと言われてきたように、経絡治療では絶対考えられないことした。でも、経絡の流注に逆らって瀉法が効いたのです。これ以来、補瀉の考え方ががらりと変わりました。局所は悪くなってすぐなら実証ですが、時間がたって慢性化していたら正気は虚すので虚痛です。熱も虚熱です。ですから悪い所の局所は虚しているのです。ここに向けての遠隔取穴は瀉法がよいのです。相対的に局所は補われるのです。それで毛穴がしまり虚熱もとれるのです。

私はこの患者さんから補瀉の概念をしっかり教えられました。

この方の前にもいろいろな体験がありました。私は自分自身の左心兪が陥凹して痛く、心電図をとると不完全右脚ブロックとの事で、血液が逆流することもあり、いつも痛いのでそこに何百もお灸をしていたこともありましたが、しかし、ある時反対側の右心兪を下から上に擦ると気持ち良かったので、そこに瀉の向きに皮内鍼を貼りました。そしたら左心兪の陥凹が矯正されとても楽になったことがあり、左右の陰陽のバランスをとるには、反対側の虚痛に対しては瀉の鍼をすればよいという事が分かっていたのです。

ちなみに、この症例の方は汗かきで食べ過ぎというので、隠白刺絡で土経の瘀血を刺絡で調整すると、腎水を改善（土克水）することができて表裏の膀胱経に効くのだろうと思っている。

2. 頸部ジストニアが一回の治療後劇的によくなった例

○田 秦○様 男 45才 土木オペレーター

初診 2014年7月8日

主訴：頸部ジストニア（首が左へ曲ってまっすぐ前に向けられない）

既往歴：痛風、尿路結石、右眼底水腫

随伴症状：寝汗多

【初診時所見】

左胸鎖乳突筋がつっぱって左へ引っ張られる。右胸鎖乳突筋は圧痛と痛みが強く、特に右翳風が硬く痛みが強い。右眼に眼底水腫の既往歴があり、右側頭部はしびれている。腹診では両季肋部が張り、右側の圧痛が強い。中府、巨闕、右天枢、右大巨にも圧痛、腓腹筋は左腎右肝腎に把握痛があり、左耳が紅い。右後頭部と風池、天柱あたりに痛みと痺れがあり、背部俞穴は右心俞が陥下しており、右肝俞、腎俞に違和感、右胃俞に圧痛あり。

脈は右寸口浮、舌は全体に紅（熱）、裂紋（傷陰）、下歯の歯並び不揃い（腎）、舌苔薄、舌下静脈怒張（肝の血瘀）微かに振え（風の症）

○切経により“開穴”を探す

経脈にそって軽く撫でて過敏、気持ち良い、くすぐったい、他より皮膚の感覚が違う所を探すと①右丘墟②右照海—③右下巨虚—④右尺沢⑤両曲池⑥右厲兌—⑦右申脈—

背部は左心俞—、左肝俞—、左志室—、左胃俞となっていた。

（—は瀉法）

【治療】

①右丘墟（胆経）に王不留行の種子を貼ると、腓腹筋、左の胸鎖乳突筋のつっぱり感が変化し、同時に季肋部の張りが緩む、②右照海に瀉の向きに皮内針を貼ると、右後頭部の痛みとしびれが軽減した。腎は脳髄に作用するので、頭部の痛みとしびれによく脳や眼底に対しての血流も改善する。腹部の巨闕の圧痛には耳穴の神門で精神的に楽になり、耳穴の肝陽が赤黒かったので刺絡をしたらかなり瘀血が出た。この後、右季肋部の肝区の硬さがかなり柔らかい肝機能の改善が見た目にも分かる。下腹部の右大巨の圧痛には同側の下巨虚（小腸経の下合穴）に瀉の皮内鍼を貼ると、圧痛消失、同じ胃経の厲兌の瀉の反応には刺絡を行い右の翳風の硬さと痛み消失、右尺沢、両曲池で中府の圧痛消失。これで皮膚感覚の変化を確認。

背部は、右心俞の極端な陥凹と、右肝胃腎の圧痛に左心俞—左魂門—左胃俞外側、左志室—右申脈など取穴し、右の心俞の陥凹が改善。この後患者はだいぶ楽になり、首の曲りもあまり目立たなくなっていた。

今回は1週間後の予約をして帰られたが、その後は仕事が忙しくて予約を取消し、そのままになっていたもので、どうされたのかと気になっていたが、1か月半ほどして8月26日に来院され、あれからだいぶ良くなったとのことで、首の異常はほとんど分からない程で、私達も大変驚き、奇跡のような回復ぶりに皆で大喜びをしたものだった。この時、以前のGOT300が80になったとの事。

その後は又間が空いて3回目は12月16日だった。

それ以来体調管理に時々来院されて、感想文を依頼したら、日記を持ってきて下さり、概略は次のようなものでした。

【持参して下さった日記の概略】

2014年

- 3月12日 首が左へ曲って異変に気付く
- 3月24日 病院で頸部ジストニアと診断され、ギャバロンを処方され服用したが全く変化なし
- 3月26日 整形外科へ
- 4月3日 神経内科へ 薬をアーデンに変更
- 4月12日 仕事が出来なくなり退職
- 4月17日 新たな職場に就職
- 4月22日 ボトックス注射（1回目）少量効かず
- 5月3日 禁煙
- 5月13日 体調悪く吐く。仕事できない。起きていられない。
- 6月20日 ボトックス注射（2回目）増量するも効果無し
体調悪く、座ってられない。よく吐く、寝汗がひどい。
首の痛み、右目疲れひどい、常に首が動く度にごはんをこぼす等日常生活が不自由。電話を持って話せない。同じ姿勢でいられず常に頭を押さえている。
字も書けず、爪も切れない。靴ひもも結べない。両手でハンドルを持って運転することが出来ない。
右側の頭が痺れる。目がおかしくなる。右首の後方が痛い。
首が曲ったままで戻すと痛い。
仕事も休みがちで仕事にならない。
- 7月8日 病院受診後、東方鍼灸院を紹介されて初めて行く。翌日から劇的によくなる。体調が良くなっていく、見た目にも病気が分からない程、仕事も頑張れる。表情も明るく顔色も良い。活動的で病気になる前と同じくらい動けるようになった。
- 8月26日 東方鍼灸院2回目の受診。その後、ずっと体調よく落ち着いている

(以上日記より)

その後12月16日に3回目、12月29日に4回目、1月5日に5回目の治療を受けて、調子も良いとの事。
6回目の治療（1月14日）の時、前回の治療で耳の肝陽に刺絡をした所、大変気持ちが良かったとのことで、もう一度刺絡を希望されたので行い、かなりの瘀血が出た。しかしその後、耳が腫れて痛いからどうしたらよいかと電話で問い合わせを受けた。できれば温灸がよいと教えて行ってもらったら痛みは消えて痒みとなったが、次第にそれもなくなり腫れも引き、まだ少し耳から汁が出ていたのも温灸を続ける事で治癒した。このことから、肝陽の刺絡は肝の血瘀を改善するのに大変効果が良いが、痛みが出たときは要注意である。先述したとおり、痛みが出た場合は温灸が有効である。腫れて熱っぽい場合、更に温めてどうかと思われるが、局所を温めるとそこに血液が多量に誘導され、免疫が高まるので消炎作用が亢進して痛みが治まり、やがて治癒に至る。

【その後2015年8月6日】

電話で様子を知らせてくれたが、あれ以来お酒も少しにして、調子がよいが時々左手と左脚の薬指、小指が痺れるので、胆経と三焦経にローラー針をしたら調子が良くなるとの事でした。

結局、この症例を傷寒論で考えると、手足の少陽経が最も変動を表しているので、少陽病ではないかと思われ
ます。もともと少陰腎（舌紅、裂紋、下歯の歯並び不揃い、寝汗）が弱い上に、飲酒歴があり、離婚のストレ

スなどで心労が重なり（右心兪の陥下、巨闕の圧痛）少陰心と腎の陰陽のバランスが崩れ、陽と陰の間にある少陽の病となった。

なかなか止められなかった飲酒は肝臓に最も負担をかける。肝の病を、胆が受け、手足の少陽経の変調として、胸脇苦満で季肋部が張り、胸鎖乳突筋（山元式頭鍼療法で首診の扶突は肝と出ている）の中央は大腸経（金）の扶突ですが、肝（木）と臓腑の陰陽関係にあるので、肝胆経の治療をすると扶突（大腸経：金）の圧痛は金木の陰陽関係で取れるのです。

このように、陰陽太極鍼で求められた“開穴”に正確に一穴治療をただけで、事前の体表観察で得られた反応が消失し、症状もよくなるという、病因病理を即反映させ効果を確認できるという治療法はとても有効で確かな手応えがあり、傷寒論で述べられている陰陽五行臓腑経絡の理論の正しさが証明できると思われる。

【参考文献】

- 絶版「傷寒論鍼灸配穴選注」 単 玉堂(著) 人民衛生出版社 発行 1984 年
- 新版「傷寒論鍼灸配穴選注 現代著名老中医名著重刊叢書第 8 輯」 単 玉堂(著) 人民衛生出版社 発行 2012 年 2 月
- 翻訳版（絶版）「傷寒論鍼灸配穴選注」単 玉堂（著）、木田 一步（翻訳） 緑書房 発行 1996 年 3 月 1 日
- 「針灸学」完全復刻版 土屋書店 発行 2007 年
- 「中医針灸学の治法と処方」 p17 東洋学術出版社 発行 2001 年
- 「鍼灸ジャーナル」2008 年第 3 号 p43～58、第 4 号 p23～31 (緑書房)
- 「鍼灸ジャーナル」2012 年 7 月 第 27 号 “眼科疾患の鍼灸治療”
- 「鍼灸 OSAKA」 “腹診を考える-募穴の反応の変化を確認する” p77～81、 2011 年秋季号(森ノ宮医療学園出版部)
- 「鍼灸 OSAKA」 “日本鍼灸と中医学の相輔相成より生まれた"陰陽太極鍼” 2012 年 11 月秋 107 号(森ノ宮医療学園出版部)
- 「鍼灸 OSAKA」 “脾経腰痛を陰陽のバランスで治療する” 2014 年 5 月春 113 号(森ノ宮医療学園出版部)※
- 「鍼灸 OSAKA」 “陰陽太極鍼と刺絡治療” 2015 年 5 月春 117 号(森ノ宮医療学園出版部) ※
- 陰陽太極鍼の実際 ※
- “東洋医学へのいざない” (2014 年 2 月～12 月 十勝毎日新聞に連載) ※
- 東方鍼灸院ホームページに患者さんや研修生の感想文、発表論文などを掲載 ※
- DVD “陰陽太極鍼” 2011 年 6 月(ヒューマンワールド社) 付録 陰陽太極鍼の実際

(※ 当院のホームページから閲覧及びダウンロード可能)

〒080-0010
北海道帯広市大通南 21 丁目 14 番地 2
東方鍼灸院
TEL.0155-24-8111/ FAX.0155-24-7281
e-mail toho1189@toho-shinkyu.com
<http://toho-shinkyu.com/>